

見えないものと
見えるもの

Kijima Toshihiro

木島俊裕

青山ライフ出版

見えないものと見えるもの◆目次

I

鎮魂 三・一一

黙禱 三・一一

水底より

春

II

ブツダ

キリスト

七人の老婆

発心―南無発菩提心

夢の続き

III

見えないものと見えるもの 38

和子さん 42

「ぞうさん」の詩人が死んだ 45

この思いはなんだろう 46

エネルギー 48

宝物 51

ぬくもり 53

還暦 55

詩人 60

記憶 63

きおく 66

老後	69
死後	71
未熟者	73
大いなるもの	76
八支の道	79
縁	82
いちにち一生	88
今日いちにち	90
死	94
たましい	98

I

鎮魂 三・一一

I

自然に死ねたらいいね
と

よく話していたが

津波で溺死することは

自然死だろうか？

見知らぬ誰かに路上で

いきなり刺し殺されるよりは

ずっと自然なことだろうか

幼い子供が口の中を砂でいっぱいにして

たったひとりで

海底に沈むことが

小学生が校庭から

あつというまに

海の藻屑になってしまふことが

自然死といえるのだろうか？

死んだ者たちは誰も語らない

ただ冷たい死骸むくろとなって

ゆらゆらゆれているばかり

II

海が襲ってきた

空が巨大な瀑布となり

海は巨大な海獣となり

人も家も木々も街さえも呑み込む

みんな泥の中の魚のように埋もれる

海を泳いでいたのはもうずいぶん昔だ

こんな濁流の中では

息ができない

目も見えない

ただあきらめることしか